

研究公正推進事業の令和5年度実績及び 令和6年度事業計画

令和6年5月31日

文部科学省、日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構

研究公正推進事業 (文部科学省/日本学術振興会/科学技術振興機構/日本医療研究開発機構)

令和6年度予算額 1 億円
(前年度予算額 1 億円)
※運営費交付金中の推計額含む



現状・課題

研究活動における不正行為の事案が後を絶たず、社会的にも昨今大きく取り上げられていることを踏まえ、文部科学省では「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年8月26日 文部科学大臣決定)を策定した。

ガイドラインは、研究機関に対して研究倫理教育の実施を求めている。文部科学省及び資金配分機関(日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構)に対して、**研究倫理教育に関する標準的なプログラムや教材の作成、実効性の高い研究倫理教育とするための支援等**を求めている。

「科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律」(平成30年12月)においても、「研究開発等の公正性の確保等」が強く求められている。また、科学技術・イノベーション基本法(科学技術基本法から変更(令和2年6月))においても、科学技術の振興は、研究開発において公正性を確保する必要があることに留意する旨の規定も策定された。

事業内容

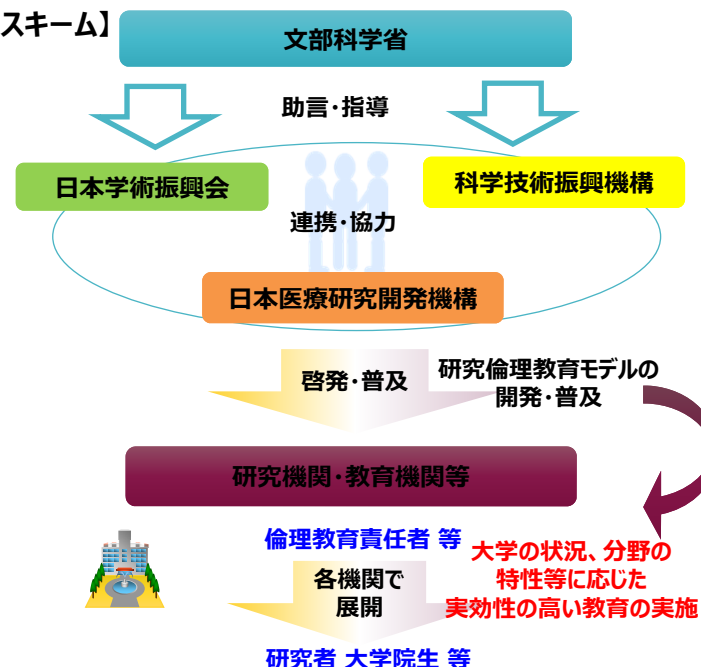
研究倫理教育教材の普及・開発や研究倫理教育高度化等により、それぞれの状況に応じた効果的な研究倫理教育の実施等を支援することで、公正な研究活動を推進する。

【事業概要】 ※事業開始年度：平成27年度

<日本学術振興会> (39百万円(前年度同額))	<科学技術振興機構> (74百万円(前年度同額))	<日本医療研究開発機構> (21百万円(前年度同額))
教育		
分野：全ての分野 対象者：主に研究者	分野：全ての分野 対象者：主に研究公正担当者	分野：医療分野
テキスト教材、eラーニング教材	映像教材のシリーズ化 ※実践力強化のための 双方向型教育モデルの 開発・普及	医療分野の不正事例集
上記教材を活用したセミナー	研究公正担当者向けWS	ヒヤリ・ハット集
研究者の教育効果向上	担当者による研究機関での 研究倫理教育の企画力向上	
情報発信・連携・窓口		
- ポータルサイトの運用・改善等 - シンポジウムの開催(3FA連携) - 研究公正担当者のネットワーク構築 - 研究機関からの不正行為を防止する体制の構築の相談対応・助言(3FA)		

<文部科学省> ○ ガイドラインに基づく履行状況調査等(3百万円(前年度同額))

【事業スキーム】



【これまでの成果】

- ・eラーニング教材(日本語版&英語版)の開発・公開等(JSPS)
- ・研究公正ポータルサイト(日本語版&英語版)の構築・運用(JST)
- ・医療分野の研究不正事例集、ヒヤリ・ハット集の作成(AMED)
- ・研究公正シンポジウムの開催(3FA連携、毎年度実施)等

(担当：科学技術・学術政策局研究環境課研究公正推進室)

日本学術振興会（JSPS）

2023年度実績

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) テキスト教材（Green Book）の普及

- 日本語版の販売部数：66,079部（2024.3.28時点）
- 英語版の販売部数：5,997部（2024.3.28時点）
- ホームページにおいてテキスト版（日本語版・英語版・製本版）を公開

(2) eラーニング教材（eL CoRE）の運用・改善等

- 研究者向け・大学院生向け教材
- ・それぞれについて日本語版、英語版を提供
- ・利用者にアンケートを実施し、利用状況および要望等を集計
- ・コースレビューのテキストマイニングを実施
- 登録者数：797,863名（2023.12.31時点）※のべ人数

2. 研究倫理教育の高度化

- 第6回JSPS研究倫理セミナー
「研究者倫理教育にグループワークを導入する」の開催（2023.12.1）
※オンラインセミナーとして実施
 - ・eL CoRE既履修者で、研究機関の研究倫理教育担当者65名が参加
 - ・専門家による講演やグループワークを実施
- 研究公正シンポジウム「研究分野特有の研究不正への対応について」を開催（2023.11.17）
（主催：AMED、共催：JSPS、JST、NEDO、BRAIN）
 - ・研究者や研究機関事務担当者などが参加
 - ・専門家による講演やパネルディスカッションを実施

3. 不正に関する告発等受付窓口

- 電話、FAX、メール又は面談により告発等を受付

2024年度計画

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) テキスト教材（Green Book）の普及

- 前年度に引き継ぎ、普及に努める。
- 平成27年3月の出版後、研究をとりまく環境が変化した事を踏まえ、改訂を検討

(2) eラーニング教材（eL CoRE）の運用・改善等

- 教材の改修
- ・教育効果の高い、よりよい教材へ改善するため、修了者へアンケートを実施し、その結果を踏まえ、改修案を検討
- ・Green Bookの改訂を踏まえ、必要な改修を検討

2. 研究倫理教育の高度化

- 第7回JSPS研究倫理セミナーを実施予定（2024年秋頃）
※オンラインセミナーとすることを検討
- 研究公正シンポジウムの実施
 - ・2020年度より、5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により実施（2024年度はJST主催で開催予定）

3. 不正に関する告発等受付窓口

- 電話、FAX、メール又は面談による告発等の受付を引き続き実施

研究倫理教育の高度化に関する取組／

第6回研究倫理セミナー 令和5年12月1日(オンライン開催)

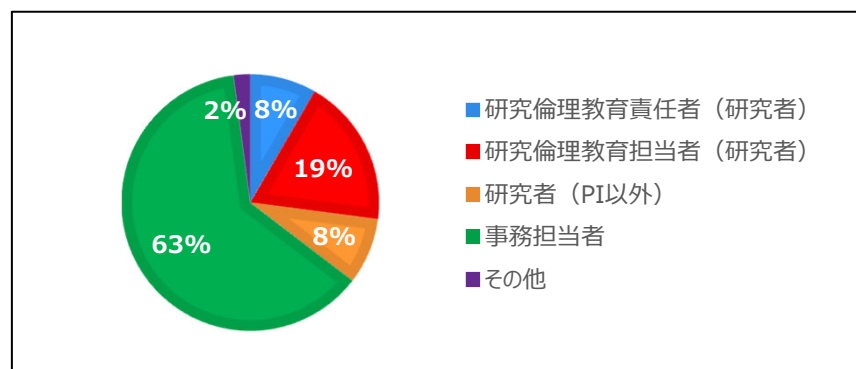
各機関等においてグループワークを導入する際のポイント解説及び

グループワークに適した事例の作成方法を解説するとともに模擬グループワークを体験する

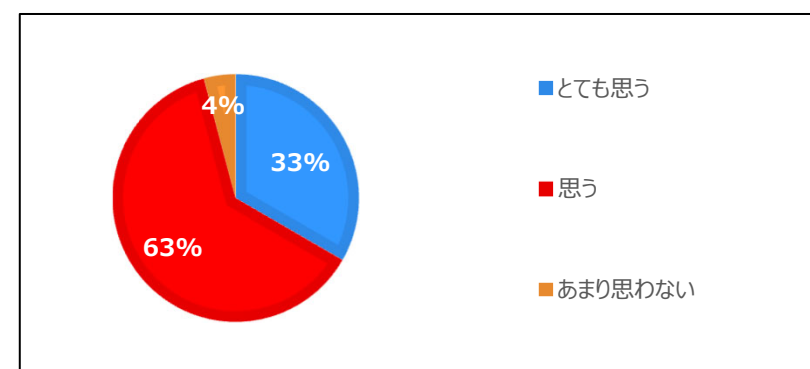
講師: 片倉啓雄 (関西大学 化学生命工学部 教授)、中村 征樹 (大阪大学 全学教育推進機構 教授)

アンケート結果 (受講者65名、回答者48名)

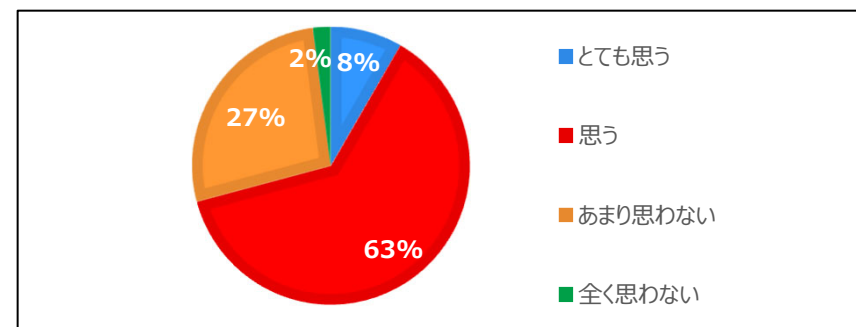
○研究倫理にどのような立場で携わっていますか。



○本セミナーは今後の責任ある研究活動の推進に有効であると思いますか。



○所属機関に戻られて、同様のグループワークを実践してみますか。



○今後のセミナーで取り上げてほしい事例学習

- ・ 研究に関する倫理審査について
- ・ 生成AIの使用における倫理観のあり方
- ・ 不正防止等に関するグレーゾーン事例
- ・ 電子データの取り扱いに関する研究倫理セミナー
- ・ 研究倫理と研究インテグリティとの関係について

科学技術振興機構（JST）

令和5年度実績

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) ポータルサイトの作成・配信運営等

- 研究公正・研究倫理に関する様々な情報を配信
- 研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実
- 英語版の研究公正ポータル運用
- 研究不正・研究費不正に関するパンフレット※（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子）
- ※査読に関する通知等も掲載
- 映像教材「倫理の空白Ⅱ 盗用編」の公開（令和5年5月）

2. 研究倫理教育の高度化

(1) 研究倫理映像教材の制作

- 倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に
応じたケースメソッド式映像教材
「倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン（人文・社会科学編、自然科学編）」、令和3年度・令和4年度映像教材の手引書制作

(2) 研修会・シンポジウムの実施

○研修会（WS）の実施

- ・研究倫理教育担当者対象の研修会を実施
（7月、10月（2回）開催）

○出前講習の実施

- ・研究機関等からの要望に応じて、JSTによる研究倫理に関する講習会を実施。研究機関で倫理研修を実施する際の参考としてもらうことがねらい

○研究公正シンポジウムの実施

- ・5FA連携により、会場・オンラインにて開催
（AMED主催（11月））

3. 不正防止・対応相談窓口

- 電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ対応

令和6年度計画

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) ポータルサイトの作成・配信運営等

- 研究公正・研究倫理に関する様々な情報を配信
- 研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実
- 英語版の研究公正ポータル運用
- 研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子）
- 映像教材（倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン）等の公開

2. 研究倫理教育の高度化

(1) 研究倫理映像教材の制作

- 倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に
応じたケースメソッド式映像教材

(2) 研修会・シンポジウムの実施

○研修会（WS）の実施

- ・映像教材等を活用し研究倫理教育担当者対象の研修会を実施

○出前講習の実施

- ・規模や体制等の事情から、研究機関自らでは研究倫理講習を実施し
づらい機関を主な対象に、研究機関からの要望に応じて講習を実施

○研究公正シンポジウムの実施

- ・5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により開催予定
（令和6年度はJST主催）

3. 不正防止・対応相談窓口

- 電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ対応



令和5年度制作 研究倫理教育映像教材 「倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン」

「疑わしい研究行為（QRP）」に関して、2つの研究分野におけるストーリー（映像）を制作。
ドラマの視聴とディスカッションを組み合わせたワークショップやグループワークで活用することを想定し、
大学における講義、研究機関での講習などさまざまなシーンで利用できるものとした。

【人文・社会科学編】 視聴時間 約35分

○ストーリー

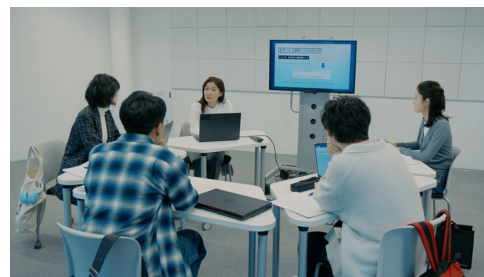
南鷹大学の池田研究室では、院生が思い思いの研究テーマで論文執筆に励むなか、
それぞれが研究データの管理やオーサiership、二重投稿といった研究倫理上の問題に直面する。

【自然科学編】 視聴時間 約32分

○ストーリー

学生思いの指導者・駿星大学の藤田准教授は、研究倫理教育や論文投稿の指導を熱心に行ってきた。大学院生の加藤は、自身の過去論文に引用漏れがあることに気づき、藤田の過去論文にもサラム論文疑惑がもちあがる。それぞれが自身の過去の研究行為に向き合う。

令和6年5月
研究公正ポータル
にて公開中



令和5（2023）年度 実績	令和6（2024）年度 計画
1. 研究倫理教育教材の開発・普及・高度化 (1) 研究不正に関する事例集（普及版・考え方例集）の作成・公開 - 日本語版／英語版のホームページ掲載（継続） - RI0ネットワークのメールマガジン等による周知 - 日本語冊子版の配布 (2) 研究公正に関するヒヤリ・ハット集の作成・公開 - ヒヤリ・ハット集第2版（英語版）の作成（※日本語版はR4作成）（※第1版：31事例6コラム→第2版：52事例8コラム） - ヒヤリ・ハット集第2版（日本語・英語版）のホームページ掲載 - RI0ネットワークのメールマガジン等による周知 - 冊子版の配布 - 学会を通じてヒヤリ・ハット集を活用したの教育トラック「臨床試験に関するヒヤリ・ハット：研究不正防止に向けて」の配信 (3) 適正な画像処理方法の公開 「適正な画像処理方法」のホームページ掲載（継続） - 冊子版の配布 2. 情報発信及び連携・ネットワークの強化 (1) RI0ネットワーク - メールマガジンの定期配信 - 学会等との連携による分科会活動の展開 (2) 研究公正シンポジウム - AMED主催で5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により、研究公正シンポジウムを開催（令和5年11月） 3. 不正防止・対応相談窓口 ○書面・電話・FAX・電子メール・面談により、引き続き対応	1. 研究倫理教育教材の開発・普及・高度化 (1) 研究不正に関する事例集（普及版・考え方例集）の普及 - 日本語版／英語版のホームページ掲載（継続） - RI0ネットワークのメールマガジン等による周知 - 日本語冊子版の配布 (2) 研究公正に関するヒヤリ・ハット集の改訂 - ヒヤリ・ハット集第2版（日本語・英語版）のホームページ掲載 - RI0ネットワークのメールマガジン等による周知 - 冊子版の配布 - 領域別ヒヤリ・ハット集の作成（予定） (3) 適正な画像処理方法の公開 「適正な画像処理方法」の改訂（予定） 「適正な画像処理方法」のホームページ掲載（継続） - 冊子版の配布 2. 情報発信及び連携・ネットワークの強化 (1) RI0ネットワーク - メールマガジンの定期配信 - 学会等との連携による分科会活動の展開 3. 不正防止・対応相談窓口 ○書面・電話・FAX・電子メール・面談により、引き続き対応

令和5(2023)年度 研究公正に関する取組

【詳細】 https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/symposium.html

令和5年度研究公正シンポジウムの開催

(テーマ：責任ある研究・イノベーションの展開に向けて)

日時 2023(令和5)年11月17日

形式 オンライン開催

参加費 無 料

参加者 410名

対象者 研究者や研究機関の研究倫理教育責任者など

主催：日本医療研究開発機構(AMED)

共催：日本学術振興会(JSPS)、科学技術振興機構(JST)、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター(BRAIN)

プログラム：

主催者挨拶：三島 良直 日本医療研究開発機構

来賓挨拶：岡村 勝文 文部科学省研究公正推進室

基調講演：菱山 豊 徳島大学

テーマ：新しく出現する科学技術にどう取り組むべきか？

ーライフサイエンスを題材にして考えるー

休憩(JST「倫理の空白」動画上映(2本))

パネルディスカッション1：

テーマ：社会との対話を通じた「責任ある研究活動」の推進

ー医療分野の研究開発の事例からー

座長：田代 志門 東北大学

パネリスト：桜井 なおみ 一般社団法人CSRプロジェクト

山田 恵子 埼玉県立大学

八代 嘉美 藤田医科大学

渡邊 祐介 北海道大学病院

パネルディスカッション2：

テーマ：最先端の研究開発を支える研究公正・研究倫理教育のあり方

ー「責任ある研究・イノベーション(RRI)」による研究推進に向けてー

座長：東島 仁 千葉大学

パネリスト：藤垣 裕子 東京大学

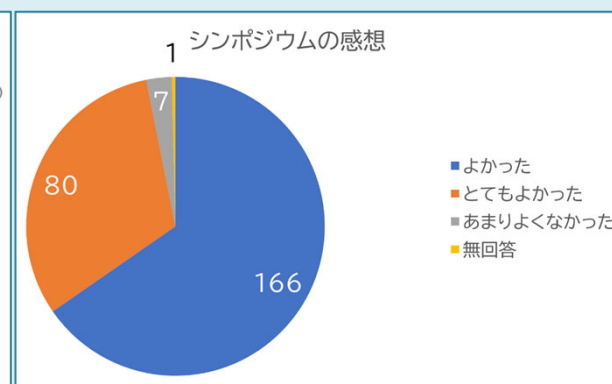
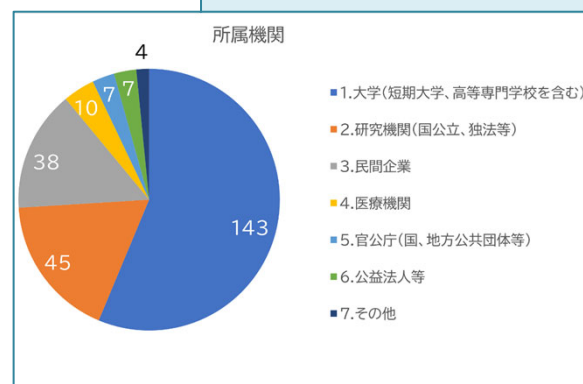
三島 良直 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

横野 恵 早稲田大学

吉田 雅幸 東京医科歯科大学



参加者アンケート



(個別コメント(一部))

- 研究倫理を機関全体で推進する具体例について、とても参考になりました。
- 文部科学省と研究者コミュニティが相互理解が必要であることがわかった。
- 研究活動を取りまく環境や利害関係を改めて認識し直すことができた。
- この状況下で、研究活動に関わる倫理的問題・議題を自分なりに理解し、研究活動に反映させていけるようにしていきたい。
- 機関担当者も各自で努力されているのは理解できたが、より広く展開することが望まれる。

令和5(2023)年度 研究公正に関する取組

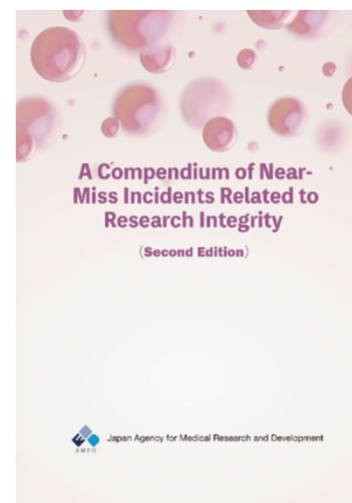
研究公正に関するヒヤリ・ハット集 第2版・英語版の作成・公開

研究を進めるにあたっては、実際に研究不正を行ってしまう人は少ない一方、何らかの理由のために不適切な研究行為をしてしまおうか悩みながら 思いとどまった例や、周りの人にそれは不適切な行為だと指摘されて不正をせずに済んだ例は実に多く存在すると考えられる。それらのヒヤリ・ハット事例を研究者等に広く紹介・共有し、似たような境遇になった際に思いとどまることができるようにするために、「研究公正におけるヒヤリ・ハット集」の第2版を作成・公開している。

令和5年度は、研究活動の国際化に鑑み、「研究公正におけるヒヤリ・ハット集」第2版の英語版を作成し、公開した。

(※第1版：31事例6コラム → 第2版：52事例8コラム)

【掲載先】 https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/kiyouzai_hiyarihatto.html



監修：

関西大学

筑波大学

田辺三菱製薬株式会社

片倉 啓雄 先生

岡林 浩嗣 先生

金井 康郎 先生

※監修者等の所属・役職名は当時のもの

RIOネットワーク分科会として 第9回研究倫理を語る会を共催

研究倫理を語る会は、医学系研究を支える様々なステークホルダー（研究機関の長・研究者・医療者・研究支援者・研究倫理支援者・CRC・倫理審査委員会委員・倫理審査委員会事務局員・患者・企業等）が一堂に会し、多方面からの議論ができる時間をつくること、そして、臨床研究支援・研究倫理支援に携わる方々の情報共有・意見交換の場を設けることを目的としている。

AMEDではこれまで、RIOネットワークを通じて、研究倫理や研究公正に関する関係者のネットワーキング構築を目指してきたが、RIOネットワークの取組として第9回研究倫理を語る会を共催することにより、医療研究開発の倫理性の向上を目指す。

【詳細】 https://www.amed.go.jp/news/event/20240302_researchethics.html



研究倫理を語る会
プレナリーセッションの様子 (R6. 3)